

令和 2 年（2020）の干支・御題菓子販売のお知らせ

株式会社虎屋（代表取締役社長：黒川光博、所在地：東京都港区赤坂 4-9-22）は、令和 2 年（2020）の干支「子」と、歌会始のお題「望」にちなんだ新商品を期間限定で販売いたします。お世話になった方への御歳暮や年始のご挨拶など、感謝の気持ちや新しい年への想いを込めた贈り物にいかがでしょうか。

<令和2年(2020)は子年>



干支羊羹^{しゅんよう}『春陽の子^ね』

干支「子」にちなんでおつくりしました。黄煉羊羹でやわらかな春の陽射しを、黒煉羊羹で春の訪れに胸を躍らせるねずみの姿を表しています。

【販売期間】2019 年 11 月下旬～2020 年 1 月下旬(予定)

※一部店舗では販売いたしません。

【価 格】中形 1,944 円(本体価格 1,800 円)

竹皮包 3,888 円(本体価格 3,600 円)



干支パッケージ 小形羊羹

『夜の梅』(小倉羊羹)、『おもかげ』(黒砂糖入羊羹)、『新緑』(抹茶入羊羹)の 3 種類を、干支「子」のパッケージでご用意しました。

【販売期間】2019 年 11 月 20 日～2020 年 1 月上旬(予定)

【販売店舗】全店

【価 格】各 1 本 260 円(本体価格 240 円)

5 本入 1,404 円(本体価格 1,300 円)



『ふくらねずみ』桃山製 特製白餡入

ふっくらとした丸い体のねずみを桃山製でかたどりしました。春の訪れを心待ちに、冬の野を見回している様子を表したお菓子です。

【販売期間】2019 年 12 月 16 日～2020 年 1 月 15 日

【販売店舗】関東・近畿地方の生菓子取り扱い店

【価 格】1 個 486 円(本体価格 450 円)



『^{ほうじょう}豊穰の^{つか}使い』 道明寺製 白小倉餡入

ねずみは、豊穰の神である「大黒天」の使いといわれています。米俵を表した黄金色の道明寺饅頭にねずみの焼き印を押し、新しい年の五穀豊穰を願ったお菓子です。

【販売期間】2019年12月16日～2020年1月15日

【販売店舗】生菓子取り扱い店 ※御殿場店は12月29日～1月15日

【価 格】1個 486円(本体価格 450円)

<令和2年(2020) 歌会始のお題は「望」>



御題羊羹『^{のぞみ}望の^{ひかり}光』

黄の琥珀羹・道明寺羹・煉羊羹でまっすぐに射し込む陽の光を表しました。趣の異なる三種の黄が織りなす晴れやかな光は、希望に満ちた未来が広がっていることを思わせます。

【販売期間】2019年11月下旬～2020年1月中旬(予定)

※一部店舗では販売いたしません。

【価 格】中形 1,944円(本体価格 1,800円)

竹皮包 3,888円(本体価格 3,600円)



『^{のぞ}望みの^{はる}春』 湿粉製

緑の羊羹製で萌え出る芽を、紅と黄のそばろでつぼみがほころぶさまを表したお菓子です。この先の時代も、変わらぬのどかな春の景色を見続けたいという望みを込めて、おつくりしました。

【販売期間】2019年12月16日～2020年1月15日

【販売店舗】生菓子取り扱い店

【価 格】1個 454円(本体価格 420円)

歌会始について

人々が共通の題で歌を詠み、その歌を披講する「歌会」。その中でも、天皇によって開催されるものを「歌御会」といい、年の始めに開かれるものは「歌御会始」と呼ばれていました。大正15年(1926)以降は「歌会始」と改められ、今に至ります。令和2年(2020)の歌会始のお題は「望」です。

御題菓子とは？

その年の歌会始の「お題」にちなみ、考案されたお菓子。明治7年(1874)、それまでは皇族・側近などで行われていた歌会始に、国民の参加も認められるようになりました。こうして歌会始が身近なものになってきたことも背景に、明治21年(1888)、京都の上菓子屋の有志が集まり、「お題」にちなむお菓子の展示を開催。これをきっかけに歌会始にちなんだお菓子をつくる店が増えていきました。当店では明治40年(1907)に記録があります。

<取材に関する問い合わせ先>

株式会社 虎屋 社長室広報担当 黒川さゆり 住所：東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7階
電話：03-3408-4128 FAX：03-3408-6274 E-mail：kouhou@toraya-group.co.jp HP：www.toraya-group.co.jp